



續子摺昔木偶

三

~ 13  
3106  
3





門 へ 13  
號 3106  
卷 3

續年譜昔木偶卷之三

饗庭文庫

江戸 柳亭種彦作

昭和九年  
七月二三日  
購求



六 やまかんわとがこ

命あにとく 頼川ぬ墓ふこ身とや何し 譬人未だ露りく 雲消ぬるまこ  
で世と去りし 信太助が夏のも慕く 梢乃 猿友と失ひ 水鳥の陸に迷ふ  
やひらん 薫ハ一切人にとんえむ 活て 扱かりんよう 死くうれし 命との  
あひまこし 長よ 身と未女 妓女れわさまう さん 死くるさん 公に任せ  
且へ 信夫がとれ 絆とありく 夢に 似くる日とや 訪ひよる 客へまじく  
かれば 三頁の 操とちがく 客わし び笑ひ 客あけし び 歎き 峯は 白雲 立あけ  
花の 雪と 散草 蒲に 涼しき 夕風と 真葛と 翻し 虫乃 声 弱  
やふぞ 秋も 未ばかり ねと 知れし 彼 信太之助 が 生害か けり 葬々々



更ふり。石と刊銘と作るまで悉く薫るふもみかれど暇かき方冷きとなく。  
そらうま入にわつらん。一度も墓に訪ねど一日長い暇を信夫から  
とと未れ下刺花街とていね。信太の助が亡骸と埋める草原の  
岡といふ假粧坂乃西にわたり。梅谷綴喜里の山手と名げも彼鳥辺す。  
蓮臺野に存し。文とやぐる三昧を茶毗に煙絶るときかく。比所に  
此彼所に烘昨日サレ其人も今日又明日の人の先づ。松丘れりとも唯  
訪一涙よ。枝。誰名と残を形見にやわ。人若茂石碑雨露に朽る  
卒お婆路乃中てい連。寶蓋幢幡乃断離せ。枯骨よはじやうら散  
最幽間。氣味荒野かり。みて信太の助が壠に不とり。見るに野草雨に潤  
く華と供。浅芽露風は散く自末岡伽と手向るのを。我ふくく。吊人  
わらとととと。夫生わいばかり。死わり。形と残も者さうふかく。林を

灰燼とかり。變じく。綦敷とふる。唐尺書に足之。し。つ。壮年の  
丈夫墳墓一基乃。ま。り。し。最期のとと。え。ひ。む。  
涙にかさくれわ。信夫と壠に前に。つ。ひ。せん。乃。不。幸。  
い。病。復命衰運極了。悲。宿意と遠き。自殺。亡。あ。ひ。ね。  
つ。故。縁。と。つ。妻。と。詳。に。知。り。ご。れ。ど。仔。細。と。書。て。籠。や。さ。し。錦。乃。  
信。夫。と。ま。る。べ。サ。カ。チ。成。長。と。又。素。懐。と。う。も。つ。べ。よ。さ。か。れ。た。  
臆。念。と。忘。る。と。か。れ。と。言。論。已。壠。乃。前。額。突。今。ま。あ。い。ご。と。く。  
信。夫。と。成。長。ふ。何。よ。ま。れ。君。が。怨。と。し。ま。し。ま。せ。ん。わ。い。ど。水。く。幽。冥。の。  
安。の。南。无。仏。と。唱。し。出。乃。声。え。わ。れ。と。添。観。念。の。助。縁。と。か。り。ぬ。  
日。富。度。乃。吉。隣。翁。の。死。を。野。外。に。送。ら。れ。け。翁。は。身。八。旬。に。ま。ぎ。と。あ。り。  
く。ま。生。か。り。ける。い。ろ。親。類。と。只。管。ふ。嘆。む。ま。い。て。や。を。西。乃。余。死。よ。ん。か。せ。



人の権と煙とが果とせまうとて己を公ぐに別さる。吉三と先簾の方  
いづれとんと岐のひに材とらけり。段八と物語りて向う人乃来と  
あつても董は橋にさかすけり。其の操念珠に公とせり。もて人あり  
と公のひも。橋乃ま中ほくとして。性合互に力と避んとあしけれ。橋乃  
面いと狭く公よまうせむ。徒倚足と踏とめ。公は董へ吉三に袖は携免を  
あつてひつとせ。公のむかひに倚添く。其人と熟する。年北程は信太  
の助は三四心かとあすはとれ。容顔はくも似たり。孰ち招魂乃法と修  
し。現に八尾ぬ陽炎乃。そま亡魂や招つんと。怪しきまうくはん。それと乃  
名と向まわく。公のひに便もあつて。性合互に。時董が詠はる。雅妓の  
うらみ段八と相識ののり。によう。公は富度。家君多り。と。知し。嗚呼  
つかる。因縁はやせむ。くはんと公放。まんま。公恍惚と。歩はかかく。

とわつ。け堂に憩。火車とま。終ま。けと。自地。よま。あ。ね。頃。董へ。愁に。沈。客と  
ひる。と。憂と。か。み。か。れ。で。れ。を。幸。あり。と。火車。の。満。面。は。笑。と。あ。く。と。憂  
洞。の。か。う。い。ろ。り。あ。べ。と。雅。妓。は。密。話。を。し。る。果。と。走。り。行。く。吉。三。は  
に。追。つ。ま。段。八。は。い。は。い。と。う。は。ま。と。さ。け。る。が。段。八。は。豫。と。田。子。松。と。と。え。る。吉。三。は  
か。ひ。う。か。り。と。計。校。居。る。時。か。れ。で。れ。這。奴。が。公。と。瀉。と。い。の。屈。強。の。と。と  
と。い。ひ。吾。侑。と。言。と。ら。ん。今。宵。は。是。非。は。憐。れ。や。べ。用。意。と。あ。し。か。さ。る。  
と。雅。妓。と。か。り。と。さ。く。吉。三。は。箇。指。と。と。か。が。り。か。と。言。と。巧。に。と。言。は。る。  
へ。君。小。も。豫。と。董。が。名。を。あ。し。せ。あ。へ。渠。へ。今。時。め。と。く。招。ぶ。と。も。謾。に。へ  
来。ら。ぬ。か。る。あ。妓。却。と。彼。方。より。ひ。ひ。より。い。の。君。と。と。春。日。の。神。乃。化。現。を  
べ。天人の祿と。あ。ま。さ。と。い。ふ。と。我。們。の。絶。と。か。る。幸。福。と。と。少。少。心。を。あ  
か。う。い。ま。と。い。は。れ。ば。吉。三。は。あ。い。ひ。そ。れ。粉。蝶。の。花。と。思。入。の。紅。と。先。は。る。り



わがど。露と吸人と欲てかり。娼妓乃客とせよ。乃才と賞もるに  
何。財と棄人と欲てかり。かくとわりのむいひるも。もてく娼妓乃  
羽。漆はく。毛とや。虚情とつら。人懼るべし。せざるべし。西三歩ゆき  
しり。又心。以為。渠も。存る。ま。さ。入る。花。舞。一子。との。ま。ま。く。又。恥辱  
と。く。さ。水。性。乃。婦。人。と。ま。く。つ。ね。計。束。と。り。つ。く。わ。か。心。と。ま。あ。い  
中。ん。ま。ら。と。海。と。い。渠。が。許。と。訪。ひ。媚。と。ま。む。に。か。ら。び。道。理。と。い。言  
懲。さ。べ。れ。と。一。與。さ。る。べ。し。と。思。安。段。八。の。と。め。そ。乃。余。の。後。者。の。家。に。上。  
と。わ。る。酒。楼。と。登。り。く。日。乃。暮。る。と。ゆ。ね。段。八。の。敢。く。多。言。と。費。さ。さ。言。さ。  
公。忽。ち。変。じ。生。平。の。究。竟。の。と。恐。れ。し。る。花。街。に。今。宵。前。夜。も。ら。ふ。れ。ば。底。は  
か。ま。り。か。く。土。埃。と。く。か。り。て。菱。屋。が。許。つ。後。の。ま。ら。ん。と。女。童。の。ま。ら。ん。  
座。鋪。に。請。い。ぬ。吉。二。の。只。骨。活。計。乃。と。ま。ら。ん。公。に。か。ま。る。花。街。の。ま。ら。ん。と。か。い。と

と。彼。と。個。乃。才。子。の。れ。が。か。く。初。と。と。見。え。む。和。上。坐。り。か。り。傍。と  
顧。り。銀。燭。の。火。影。市。厨。子。に。妹。姉。の。糸。り。く。纏。せ。桂。の。梳。櫛。を。挽。む  
む。ら。に。掛。つ。た。絢。帳。と。し。金。屏。と。ま。ら。じ。圓。司。乃。娘。君。か。ん。と。圍。房。の。  
か。わ。ん。と。せ。り。か。り。か。り。の。れ。が。か。く。の。空。言。と。り。く。客。と。欺。さ。  
その。金。は。く。絶。妙。と。い。ふ。お。の。懼。し。公。あ。る。ま。き。人。れ。少。時。さ。り。と。止。る。金。ま。ら。ま。  
わ。く。と。か。り。か。り。酒。の。心。と。咽。に。く。さ。さ。か。り。眼。と。ま。め。く。仔細。の。視  
る。に。か。く。花。藤。の。管。り。ま。と。座。敷。小。の。似。氣。さ。く。小。女。席。を。れ。編。ま。と。垢。づ。に  
紙。衣。と。床。乃。間。に。飾。と。し。香。華。と。向。さ。り。あ。る。不。審。し。く。と。あ。る。か。と  
そ。の。れ。に。董。の。女。童。と。ま。ら。ん。徐。す。と。出。ま。さ。り。親。か。く。と。疎。か。く。ま。の  
か。り。し。不。血。と。ま。ら。ん。も。と。ま。ら。ん。更。刻。と。か。ん。え。る。稍。あ。り。く。酒。の。ま。ら。ん。か。り。  
段。八。の。席。と。退。出。か。り。董。の。吉。二。が。力。ぢ。く。と。り。初。見。来。た。か。り。ま。ら。ん。と。ま。ら。ん。







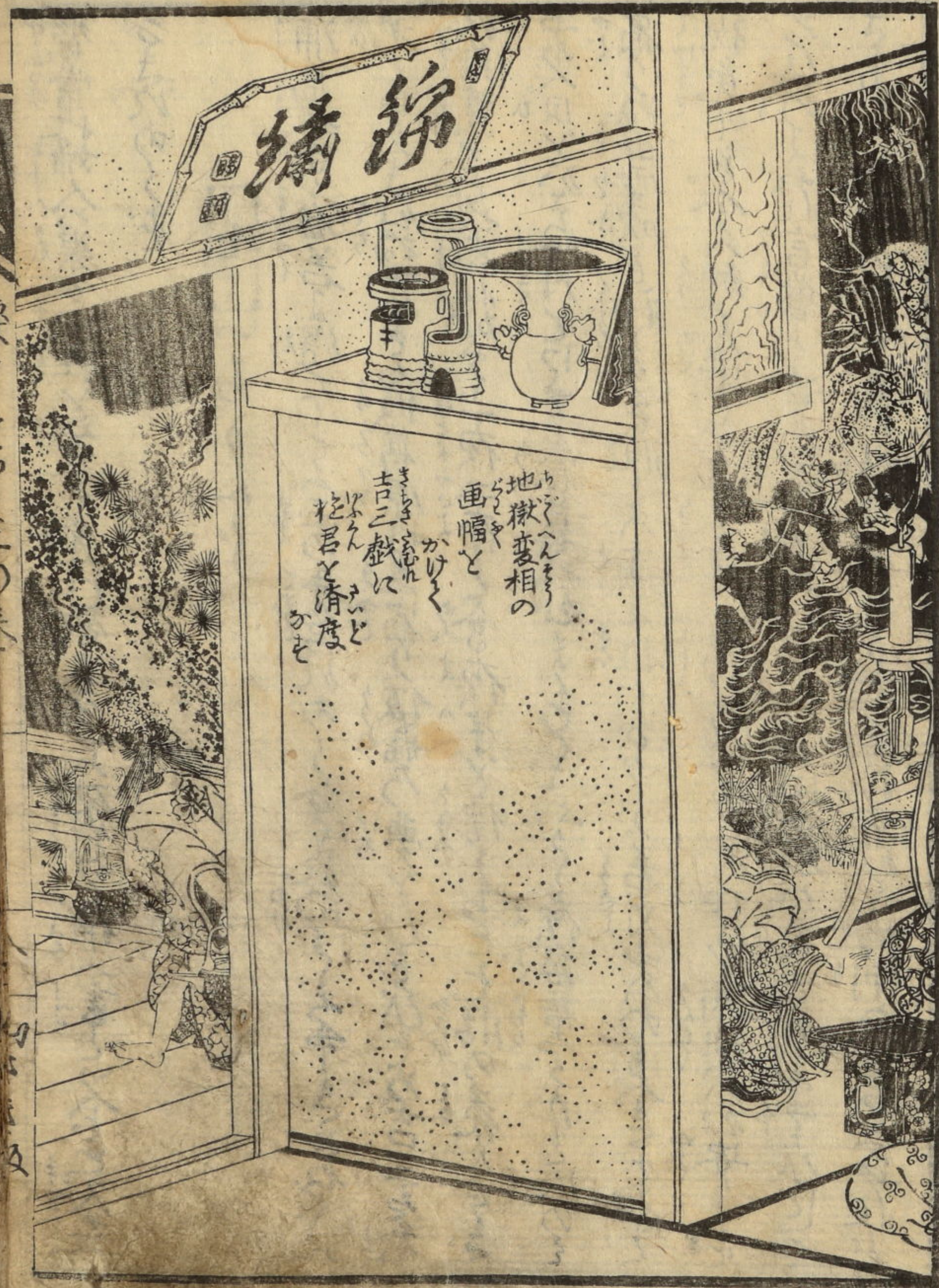
虚言とのとやひひり吾の壁井蛙少く。滄海と知く。義男の  
 信太の助かきまぐ。わんがに勉意る。只一夜はく想と果。やてひ  
 花樹と顔む。信と守と義とわん。自殺せし残す多。わんが路頭  
 へく。恥辱と捨く口説く。切る公と知。世さる。琴の調。想ひと  
 か。せ錦小文字と補せ。その古更。ゆの遙に勝。れと。誠乃俊俏的とら  
 といふ。嗚呼吾とわん。謙倉に位あぐ。存令。ら。相識。ら。こと口惜。さ。  
 わんがと又風流。ら。と慕。ら。財あるに親む。信太の助が。わん。感。終乃乃  
 苦樂。と。と。小せん。と。討。尋常。婦人。乃。わん。ぶ。ま。こと。わん。あ。と。わん。  
 ちや荆棘の林。ら。も。に。董。わん。花。乃。わん。と。と。救。回。嘆。息。あ。と。ら。ら。原。木  
 徳行の吉三董。の。自。操。と。頻。賞。を。ら。む。初。地。愛。慕。乃。想。と。い。て。玉。嚮。

まよ。ん。く。絶。妖。の。ん。ゆる。と。迷。ひ。乃。初。と。白。地。の。扇。ら。り。し。今。ひ。つ。と。く。  
 信太の助の実に一個の美男あり。吾のく。渠が意にわん。一旦。谷。親。乃。似  
 つ。と。の。く。招。ま。よ。せ。の。ふ。と。と。造。ら。の。公。わん。と。香。の。ま。と。疎。せ。れ。ん。  
 ち。う。の。わ。れ。ど。わん。乃。乃。渠。と。わん。ぶ。と。く。公。涙。あ。く。相。談。め。わん。我。と。う。ん。  
 丹。公。乃。か。う。き。併。が。く。我。乃。美。波。わん。妻。わん。乃。妻。と。よ。ん。ん。の。難。と。又  
 い。と。花。樹。乃。在。も。その。程。へ。憂。苦。と。か。ら。り。友。と。う。ん。わん。乃。乃。乃。乃。乃。  
 わん。も。中。ん。故。わん。く。妻。乃。在。所。も。安。定。う。ね。ど。白。地。は。中。ゆ。ら。り。の。と  
 叮。嚀。よ。ひ。ひ。れ。董。漸。く。愁。眉。と。ひ。も。初。く。莞。尔。と。う。ら。笑。ひ。と。れ。ど  
 妻。が。愿。ふ。れ。不。幸。乃。く。そ。と。卑。く。辞。め。ん。信。太。の。助。と。し。る。夫。の。れ。君  
 以。終。乃。と。何。さん。の。本。意。う。も。妻。の。花。樹。と。離。れ。多。べ。尼。道。公。と。と。次。女。と  
 智。人。君。乃。か。室。と。む。入。乃。未。榮。る。共。白。髮。松。乃。標。と。ち。し。れ。ぬ。娼。妓。の。其











習常此婦人渠が水性と笑くこれ教と云ふ破窓と補ふ事と云ふと益  
かまはぬわむ

七 いちりんぐ

浦島は子海若と得てて玉の手管のあつたつて年きさねの  
老と云ふま公のあつたつて彼首原に釜宿り飯焼く夢をむむびそめ吉三を免  
以角董とこれ忘れがて一夜二夜と今夜と僕もあつたつて情の花もさき  
少く月とかなぬ月とにり意慕れ公もさきふく夜毎董よりといひの  
宿りぬ母雪吹と初よりそれと疾は推かぐ。若乃少のあつたつてと  
視免と今公却て仇とあり。生産と疎のありとゆくと雨樂の公安り  
とひあつたつて言微と吉三の文の系列と又段八回子松の是とさきさき  
さきさきいそのとにりわの嗚呼とさき因果のやかく判り吉三の

鉄腸忽地蕩りつて人か隨意心とつてあり。日頃乃行跡露とかりさか金と  
塊と投りつての遊と仕使めぐるさきさきさきさきさきさきさきさき  
遊燕と用つて。花街の名と残さきさきさきさきさきさきさきさき  
ひ如く地獄変相乃画幅と掛前に毛氈と敷証とありさきさきさき  
の言三行つて公と点取法師にお教多さきさき地獄乃画幅と買請と乃夜  
花街のつちき酒遊と南とありさき吉三段八と招き彼画幅と衣杉のさき  
さき我めぐるさき彩色繪とさきさきさきさきさきさきさきさき  
並一遊若奇とさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき  
罪人の罪れ煙重とさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき  
これ絵様れ思とさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき  
吉三果せるとさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき  
地獄れ画幅と持本にさき



授與乃為かきも。菩提の要路成仏乃勝因と説き。汝等と教化せん  
 とひく。かりと扇とりく。曳幅と指示。そむく。地獄とつらき。贖部  
 洲乃下五百踰繕那と過てあり。地下なる故。地獄と号。長阿含の。閻浮  
 授の南大金剛山内。閻羅王宮あり。其城七重七重乃欄楯七重の羅網七重  
 乃行樹と説き。梵語と捺落迦又泥利とつらき。苦具め。ひく不可樂  
 と翻る。授中央。鳳冠龍帽とつらき。ひく。丹靑。十王の才五番  
 目。名ハ世々最高閻魔王ひく。在るの峯ハ火焔熾める。谷ハ水沸騰  
 わが。ヒキとて。まほく。盡く。おれ。魚鱗乃地獄の。造思乃衆生とて。め  
 總く喜果少き。の。ひ。乃。在。或ハ火熱の極。火。或ハ紅蓮の底に沈む。  
 長夜ハ水火乃責とつらき。他支と。か。ひ。是則汝等。乃。乃。乃。乃。乃。  
 と。何。の。受。が。手。人。間。生。と。受。が。病。世。業。つ。ま。て。受。は

重疊竹れ流し沈朝は容錯とまどく。空鏡の磨と。真鏡月とまどく  
 暗く少の蟬翼と。接く。衣裳の薫と。いと。一香一華と。仏と。捧と。の。哀と。知  
 らざし。ハ。文。ある。声。の。愛。つ。と。秋。野。乃。虫。と。籠。ハ。苦。め。厭。別。乃。東。雲。乃。谷。乃  
 き。勢。と。恨。も。と。つ。と。か。と。と。ね。殺。生。戒。又。他。女。れ。客。と。称。り。あ。び。く。會。偷  
 盜。邪。娼。サ。と。つ。ひ。く。思。い。さ。る。人。乃。心。と。瀉。と。ハ。妄。語。戒。に。わ。く。と。く。ん。乃  
 飲酒ハ元来杯と。わけ。ぬ。く。と。ま。き。の。の。と。五。戒。と。受。と。三。宝。と。信。せ。と。自。作。り  
 地獄に墮。水劫悪趣。昔。ま。ま。さ。ま。さ。ま。女。ハ。五。障。三。夜。と。く。罪。の。源。と  
 の。と。ま。き。の。猛。悪。と。嗜。者。遊。君。と。越。ら。る。か。く。か。と。餘。罪。を。量。り。愛。の。か。い  
 く。吉。三。天。位。ハ。悲。本。願。乃。心。と。記。く。女。肆。乃。く。地。獄。遊。び。と。名。づ。け。就。樂。と  
 催。え。先。閻。羅。王。在。衣。婆。阿。防。羅。利。俱。生。神。無。救。乃。鬼。神。と。初。と。く。或。ハ  
 空。量。地。獄。乃。隨。呵。責。と。受。る。罪。人。乃。つ。ま。ま。と。悉。く。籤。と。く。其。役。々。と











漢の隱語の  
李貞五多同  
卷一矢  
和の隱語の  
西鶴翁難  
液証  
二本と  
ありと  
あり

者、美酒瓊膳と前、使終宵とし、守の口と喰と、多し、餓餓せると、餓  
鬼道といふあり。さく阿修羅道の酒と翻あり。花と採ふ大海、鹽、  
その味酒と妻せさるると、嗔妬阿修羅の修羅の酒より、故に  
酒といふ。公龜、當る者、酒と喫と戒び、常に鬪戦と好む、他の勝  
と欲とし、奉に、銀のなり、いもわし、奉に元來、將基、双六成、投壺、矢と  
とせ、擲と勝負と争ふと、もとのと、就中、國基、月日、乃、鼠、  
さる、黑白、石、三百六十、過げ、日、教と争ふ、公、乃、教、最、ち、打、断、争、道、虎  
口、鬪、戦、の、因、あり、又、漢、花、街、の、隱、語、と、い、ふ、の、銀、子、と、杏  
樹、と、い、ひ、銅、錢、と、遍、兒、と、い、ふ、乃、類、あり、今、公、花、街、と、流、行、流、く、つ、む、と、編、等、と  
い、ひ、偽、と、入、乃、乃、と、い、ひ、金、や、肺、と、い、ひ、言、と、い、ふ、由、あり、我、と、い、ふ、ホ、れ、教、と  
隱、語、と、作、り、里、繩、と、い、ふ、と、ま、の、帶、あり、鉄、指、と、三、泉、あり、熱、鉄、と、酒、あり、

努志、心、く、む、と、説、終、り、さ、そ、寇、と、分、取、り、吉、三、餓、鬼、道、に、當、り、董、の、修、羅  
道、に、當、り、其、餘、も、抄、り、へ、詛、語、不、産、女、地、獄、血、盆、は、落、く、へ、鬼、と、も、欺、く  
男子、にて、阿、防、羅、利、異、類、の、鬼、神、と、多、り、さ、る、へ、悉、歌、妓、倡、婦、あり、其、中、に、衣  
と、する、老、女、脱、衣、婆、に、當、り、の、と、さ、の、り、え、んと、笑、ひ、と、催、ま、り、あ、れ  
ど、今、宵、の、花、半、さ、る、吉、三、が、餓、鬼、道、に、墮、在、せ、り、少、血、さ、む、る、公、お、り、と、盆  
の、流、と、淀、く、抄、り、女、童、人、慌、と、い、げ、は、走、来、り、誰、中、人、蒸、の、君、よ、今  
あ、ん、と、く、今、い、つ、く、さ、ま、と、の、と、告、げ、れ、ば、吉、三、益、良、と、失、ひ、我、花、筈、と  
も、憚、ら、ど、推、て、来、る、愚、者、後、実、乃、炎、羅、王、と、い、わ、れ、か、ど、速、に、退、退、け、さ、る  
や、我、直、に、風、景、の、殺、と、捕、酒、と、り、て、鞠、回、せ、んと、寛、々、と、して、廊、下、ま、り、く、ら  
い、で、一、が、俄、に、慌、忙、さ、つ、衣、物、の、陰、を、才、と、潜、又、に、語、と、つ、こ、と、正、堂、に、在  
人、も、吉、三、が、光、景、と、い、て、且、恐、れ、且、怪、し、と、御、下、席、と、退、き、ぬ、程、か、く、未、だ、



案内をせりうら女ハ四十の人。四ツ。五ツ。三割帯。花履うらぬ。小油の蒸。死なけれども。梅乃昔けし。面杖。臆。色。歩。衣。信と眼とつけ。ぬ。風。和。座。老。其方。乃。か。つ。の。吉。母。雪。吹。と。り。者。に。の。れ。と。中。て。蒸。う。ら。秀。三。衣。紋。は。く。ろ。ひ。裾。を。下。を。容。を。正。て。ま。と。う。人。サ。ひ。も。う。も。ね。と。な。れ。バ。お。の。ら。ひ。さ。ら。し。取。ら。し。こ。体。凡。せ。ま。つ。せ。最。面。多。と。微。笑。つ。女。童。の。茶。と。軍。下。の。て。あ。ま。さ。ま。れ。賢。一。気。う。ら。と。雪。吹。は。つ。く。う。ら。見。サ。其。中。へ。と。な。う。う。て。今。日。ま。せ。の。訪。も。せ。だ。さ。り。れ。身。サ。身。の。名。ハ。く。ワ。深。て。は。い。その。昔。より。相。識。人。と。サ。ハ。べ。と。よ。か。に。お。つ。ひ。を。に。あ。ま。と。て。と。老。乃。少。の。の。諄。言。と。う。ら。腹。で。ら。て。あ。は。る。か。談。と。も。こ。ま。ま。ぐ。の。り。こ。ら。う。の。あ。を。隔。る。こ。言。葉。よ。茶。の。う。と。取。つ。る。こ。う。ぐ。く。の。答。と。こ。こ。も。雪。吹。か。さ。も。う。

薫。乃。辨。ひ。か。ね。ぐ。風。籠。ま。さ。ま。め。の。雨。樂。の。の。り。と。ま。さ。く。お。が。こ。性。を。い。ひ。今。日。ま。い。け。吹。は。つ。る。と。白。地。ま。ま。ま。さ。さ。う。う。子。サ。び。て。の。と。ま。れ。バ。土。産。も。公。ご。ろ。を。と。巻。結。髪。菴。菓子。盒。と。蒸。が。前。の。持。運。せ。錦。の。上。は。花。と。そ。あ。り。と。常。言。の。い。ひ。め。れ。と。こ。れ。は。花。よ。ハ。ヤ。び。さ。ま。雪。より。つ。ら。る。氷。海。甚。漏。毒。と。解。と。茶。ゆ。夜。毎。に。酒。を。こ。う。ん。と。サ。ひ。つ。い。る。老。婆。を。又。巻。結。ハ。排。編。緬。め。づ。し。う。ぬ。お。あ。ぐ。舌。滑。る。唐。排。ひ。て。今。の。の。子。ハ。稀。れ。ハ。割。て。層。蒸。は。は。も。と。信。づ。ら。う。き。ら。ふ。も。茶。濁。く。顔。と。搥。づ。そ。ろ。昔。勞。ひ。う。を。ま。つ。せ。罪。い。と。う。さ。い。葉。と。つ。べ。ま。き。め。の。と。も。サ。が。こ。も。よ。か。づ。く。の。贈。物。請。を。る。昔。と。の。罵。ら。う。に。百。倍。一。く。恵。の。報。も。詔。も。は。と。流。も。り。く。ま。光。景。と。精。も。あ。ぐ。笑。ひ。ま。ま。も。う。し。流。水。止。が。く。止。水。ハ。流。し。か。ど。男。女。の。情。も。其。と。く。外。國。ま。ん。る。は。さ。サ。さ。で。自。己。が。公。乃。ま。う。ぬ。も。思。ま。る。人。乃。常。に。く。



甲



乙



信夫の助とちきりて生れ男子

信夫の助とちきりて生れ男子







よも縁くちうぶかふる直度目へんまききめ。と其時初く公づき悔ど文り  
甲斐もろくせうくへ憂いさりまひく。いふく貢が女れ乃とサ人ど遂おら  
ま乃亮く散る訪人多。金とゆて人後まひ。つらく若くてあふま  
と歌妓のサひ絶彼人かちとも旅立く。け錦倉に足とさめ。僕乃本錢とあ  
いへ商人とさまと智昔の参とかいひくも。其子に今日十奈盤の遊遊  
ぐい髪柳とくも。姿容とくろふむ。浮る公と物く。商賣れ乃励よ。  
流石繁華れ都會うれば。湖又利とぬ花主も増富いへわく。ぬど世と  
中とくろするやうにわりの内きく。満へ闕せれお俗あり。ま乃夫の以風乃  
こちと打臥く。良人乃病乞。孩れ因療に疎へみれども。常業にて  
やせけ人溺にサる病の。今世と見ゆる枕方。ま安と招く。宜ふへかく  
も病若れ居く。とへ存余とくも。サ人をも我死ゆる。ま新あき。サ人一人

よひ家と。まべきとの覺未も。改嫁と恥ひく。節美とまのり。理りれ。却て  
乃寡住はより。ぬ名と立られく。人も謾るものあり。後夫とむむひく。富  
度屋の盛栄と諱々も。若葉の蔭へ見せく。水と仔細よ。論く。其曉  
よ。律これゆふ。その時の悲く。へい。とサひあ。と。その夏あれる  
うら。清のそのと。か。ら。じ。が。良人乃語れ。サも。水。公。と。鬼。に。と。り。あ。て。女  
ば。く。と。家。業。と。嗣。三。面。忌。も。吊。ひ。つ。近。隣。の。人。乃。と。ま。わ。よ。ま。う。せ。と。び  
近。く。も。後。夫。に。別。今。の。困。樂。と。あ。ま。ま。その。以。へ。名。と。ま。次。ち。橋。つ。と。吟。め。ひ。吉。三  
と。誘。く。富。度。屋。の。贅。塔。と。く。の。め。る。氷。人。と。と。ま。大。と。違。ひ。ま。女。よ  
二十。と。年。老。め。ひ。似。え。ま。ま。夫。婦。と。つ。の。め。れ。ど。折。角。仕。似。せ。富。度。屋。乃  
店。と。絶。と。と。つ。後。夫。に。く。色。と。貪。る。心。へ。ま。く。老。實。の。と。あ。と。は。る。ひ  
殊。に。脊。腹。つ。め。も。せ。と。子。も。と。ま。う。け。く。飲。び。に。侍。女。よ。乳。母。と。俄。に。世。と



こゝめきこく。少へ心安堵し。吉三が幼きそら。ひとて。ぬゆから  
 いく。二河のわが。これ病勞し。掬る茶と。むらに喫厭。火と。さまじく。一。賺  
 寛く。と。入。させ。る。身病の。見。成長。く。愚。る。め。と。く。ま。け。ん。又。夫。と。人。と  
 案。し。り。れ。か。り。の。似。も。僕。よ。か。ひ。ろ。の。も。ろ。利。度。の。く。生。産。に。耽。誤。せ。ま。  
 と。こ。へ。書。と。読。文。字。も。知。り。近。き。れ。人。乃。讚。め。と。あ。り。て。る。め。が。今。さ。う。に。  
 控。君。れ。色。の。淫。浮。れ。の。く。さ。く。内。へ。戻。り。も。己。と。讚。く。そ。の。人。と。眼。か。き。ら。ひ  
 と。又。人。の。笑。を。る。の。と。お。意。あ。く。も。と。と。て。む。い。程。其。方。乃。徇。り。あ。り。そ。乃  
 諄。言。の。鬼。々。と。や。と。い。母。と。厭。あ。ふ。も。夫。コ。ア。ま。が。く。嚮。り。も。ま。こ。う。か。る。こ。と。と。  
 吉三と。妾。の。美。は。の。親。子。昔。堅。氣。乃。兩。樂。と。の。に。け。け。乃。彼。を。行。跡。づ。む。と  
 を。し。と。遂。に。は。度。覺。妾。が。前。よ。え。と。か。も。い。面。さ。ま。形。勢。よ。さ。ま。く。の。公。づ。ひ  
 と。乃。を。苦。し。と。縱。へ。巨。萬。の。宝。の。り。と。づ。づ。と。失。ふ。と。惜。公。の。あ。り。と。い。れ。ど

諄々も。兩樂との。心。れ。衷。と。推。量。今。宵。来。て。く。た。れ。恥。と。語。る。も。道。理。と  
 知。ら。せ。ん。と。あ。長。く。一。年。半。年。乃。づ。ら。い。の。妾。も。憑。舌。と。搦。夫。婦。の。ら。と。別  
 荘。に。住。い。て。後。富。度。屋。の。店。と。い。假。粧。坂。よ。と。と。ま。吉三が。公。假。せ。る。れ。と。夫  
 ま。い。く。吉三と。賺。し。和。元。乃。ど。く。の。産。業。と。勵。ま。う。に。き。め。あ。る。妾。も。昔。の。覺  
 わ。り。異。見。と。き。け。げ。腹。さ。う。く。理。も。非。も。つ。く。ぬ。め。の。い。の。わ。れ。ど。流。水。と  
 止。む。る。に。は。美。は。と。い。の。柵。の。恩。と。情。に。も。ら。び。え。止。め。も。流。る。や。り。あ。る  
 公。も。や。秋。も。く。年。光。ぬ。れ。バ。何。も。多。く。ま。ま。と。ま。き。長。也。治。り。さ。ま。を。位。し  
 と。や。お。れ。さ。あ。と。い。ひ。つ。衣。杉。と。顧。れ。ど。何。地。さ。ま。く。人。隱。居。し。吉三。と。女。を  
 と。入。も。あ。り。ぬ。兼。そ。の。内。膝。と。ま。と。め。ま。ま。と。く。に。理。究。と。返。す。と。人。と。む。む  
 の。に。初。め。吉三の。君。の。妻。と。よ。む。し。夫。と。冊。願。に。あ。り。ま。と。正。室。と。娶。あ。り。ぬ  
 に。臨。妨。け。の。ま。と。と。い。ふ。契。約。乃。孟。酌。か。い。直。妻。と。か。ま。り。あ。り。と。盟。の。記



へこれと見く幾くしあひぬくと上るれ袖と脱く此下に重し破紙衣  
縁故こそあつめと見方多し。謾にいとむつこも。兼涙にかまられと  
吾乃よれりおせん。白地は宜は妻もつまん中へかく。原来親よと  
兄才よ。幼とまの死し。孤乃よ。女とま。七りらる。箇根こ  
乃美に迫り水泡信太の助し。武士乃浪人。か。ひ。人。と。と。良。人。と  
あ。い。佳。に。一。夜。乃。笑。り。と。こ。め。ど。不。思。義。に。ま。う。け。男。子。あ。り。柳。巷。に。居。り  
の。悲。し。ま。女。童。に。姿。と。粧。母。と。よ。せ。と。子。と。つ。か。も。名。と。も。信。夫。と。つ。か  
は。こ。れ。と。も。夏。の。忘。草。か。ひ。つ。る。と。お。れ。く。そ。と。住。り。と。お。り。か。は。期  
ゆる甲斐も。夫の病床は臥。自害して去り。公乃。手。に。看。病。と  
さ。夫。乃。別。の。悲。し。き。と。宜。は。公。よ。比。く。片。時。も。側。に。附。添。と。刺。非。業。の。死  
ころ。あ。さ。姿。と。見。し。時。乃。妻。と。あ。ひ。と。猜。し。あ。は。紙。衣。と。亡。夫。の。則。形

見よ。何れか。と。お。り。か。は。期。ゆる。甲。斐。も。夫。の。病。床。は。臥。自。害。し。て。去。り。公。乃。手。に。看。病。と  
さ。夫。乃。別。の。悲。し。き。と。宜。は。公。よ。比。く。片。時。も。側。に。附。添。と。刺。非。業。の。死  
ころ。あ。さ。姿。と。見。し。時。乃。妻。と。あ。ひ。と。猜。し。あ。は。紙。衣。と。亡。夫。の。則。形  
見よ。何れか。と。お。り。か。は。期。ゆる。甲。斐。も。夫。の。病。床。は。臥。自。害。し。て。去。り。公。乃。手。に。看。病。と  
さ。夫。乃。別。の。悲。し。き。と。宜。は。公。よ。比。く。片。時。も。側。に。附。添。と。刺。非。業。の。死  
ころ。あ。さ。姿。と。見。し。時。乃。妻。と。あ。ひ。と。猜。し。あ。は。紙。衣。と。亡。夫。の。則。形  
見よ。何れか。と。お。り。か。は。期。ゆる。甲。斐。も。夫。の。病。床。は。臥。自。害。し。て。去。り。公。乃。手。に。看。病。と  
さ。夫。乃。別。の。悲。し。き。と。宜。は。公。よ。比。く。片。時。も。側。に。附。添。と。刺。非。業。の。死  
ころ。あ。さ。姿。と。見。し。時。乃。妻。と。あ。ひ。と。猜。し。あ。は。紙。衣。と。亡。夫。の。則。形  
見よ。何れか。と。お。り。か。は。期。ゆる。甲。斐。も。夫。の。病。床。は。臥。自。害。し。て。去。り。公。乃。手。に。看。病。と  
さ。夫。乃。別。の。悲。し。き。と。宜。は。公。よ。比。く。片。時。も。側。に。附。添。と。刺。非。業。の。死  
ころ。あ。さ。姿。と。見。し。時。乃。妻。と。あ。ひ。と。猜。し。あ。は。紙。衣。と。亡。夫。の。則。形



公は帰るべくもふかく切人方が実ある。公操とさういふより。安堵はせむしに活も  
どりぬ。唯いふも吾子れと。そのむし其方むらりなれ。吉三が夜毎に訪り。三夜は  
一夜は戻り人妓女が道理に感ぐ。客に横陳する。ばへ漁翁が殺生と厭ひて細息を  
放といふ。嗚呼夜もつら。又おんえ。さなく寛を来り。さむら知力。そと花樹乃  
気色。見せぬれと。とをと残り。さまくもる袖。携。磬。松子。ぞそのの。他の  
女。勾引して。吾子れ非と。べつひとせむ。他乃女と蛇蝎のどく。思ぐ。さぐれ  
視。公。これ。ひま。さ。入。か。く。ど。ろ。篤。め。ど。と。う。も。う。ぐ。心。の。安。堵。さ。せ。ぬ。か。う  
う。る。為。は。も。ろ。く。五。月。が。台。月。れ。ま。う。る。警。と。切。松。潔。き。公。の。不。と。と。少。し。あ。り。せ  
や。さん。よ。残。り。ま。う。恥。ら。う。と。さ。う。も。実。に。せ。む。し。つ。る。入。江。の。洲。多。羽。り。の。袖。は。涙  
の。測。り。さ。ふ。被。ん。あ。な。し。げ。ま。り。雪。吹。も。さ。ら。は。と。り。落。る。涙。と。袖。は。搔。く。し。ひ  
け。す。り。に。愛。り。ま。き。女。子。あ。う。と。も。知。ら。ず。れ。ば。土。産。も。用。意。せ。む。摺。伯。乃。帯。目

借。此。衣。た。并。や。と。ま。ん。何。し。ま。し。欲。め。伯。母。が。注。ひ。ひ。こ。の。め。と。初。き。初。き。恥。む  
く。面。と。し。油。と。ま。さ。さ。ぐ。愛。敬。つ。ま。さ。く。答。へ。ま。さ。さ。さ。む。お。う。う。向。ひ。の。樓。に。技。弓  
の。音。色。を。ま。り。り。我。乃。乃。秋。乃。乃。げ。れ。よ。も。は。わ。り。と。そ。や。賤。が。伏。を。打。を  
作。砧。れ。声。も。風。が。吹。く。奥。の。さ。と。の。い。ま。こ。し。れ。と。憂。と。秋。乃。乃。へ。却。く。涙。乃  
種。と。の。ふ。り。か。く。く。葉。の。雪。吹。が。ゆ。と。送。り。て。女。肆。の。門。首。ま。を。さ。す。り。雨。雲。落  
る。む。ら。り。の。儀。ひ。け。行。燈。の。火。數。幽。ま。く。心。が。と。さ。ら。み。添。増。か。も。さ。ぞ。〇。却。く。と  
吉。三。へ。今。宵。も。あ。い。ま。き。拵。び。て。花。樹。の。者。乃。目。と。見。え。んと。せ。む。し。豫。と。り。乃  
用。意。も。母。雪。吹。が。来。り。し。の。り。く。づ。づ。に。ま。り。あ。く。の。と。と。理。あ。る。母。れ。辞。と  
り。し。ま。く。其。席。に。も。た。ぐ。く。孤。亭。に。逃。去。口。管。大。盃。と。傾。け。つ。獨。の。ま。り  
し。と。こ。も。け。ん。と。う。せ。む。あ。り。く。く。醉。せ。む。少。時。思。案。の。あ。け。る。借。度  
公。乃。サ。ら。く。が。安。閑。と。ま。居。べ。し。く。不。孝。の。罪。や。と。ね。ん。せ。め。て。今。宵。母。に







退ききり。首蒲の籠乃。簾押わげ。吾夫とうと。勅覚せと。時吉三々十  
分。醉と。後。公。持。おげ。眠居。首蒲。り。と。お。か。け。ぬ。く。よ  
目覚つ。籠より。つる。足元の。定。う。ね。あ。う。浮雲。や。と。首。首蒲。が  
肩より。し。益。公。づ。ひ。多。れ。我。又。醉。に。何。も。今。乃。と。徒。倚。と。取  
前。籠。に。当。て。餓。鬼。道。乃。李。に。こ。そ。柳。餓。鬼。道。と。ま。こ。へ。徳。あ。る。者。山。林。塚  
廟。の。神。よ。ま。つ。れ。徳。ま。ま。り。の。不。浄。處。居。苦。と。受。と。無。量。多。餓。臨  
と。喰。と。わ。ら。ぶ。心。に。身。体。總。て。方。な。と。と。羽。と。お。げ。と。歌。つ。又。醉。行。と。倒。く。ま。  
昔。は。変。形。勢。と。か。ん。う。り。先。胸。ふ。と。う。程。ふ。首。蒲。が。顔。と。た。か。い  
も。忘。れ。あ。ひ。や。お。か。び。う。ま。き。罪。と。ゆ。と。追。て。ま。い。く。そ。時。に。死。う。ん。と。お。ひ  
定。一。か。こ。の。ふ。つ。め。疑。か。す。心。の。計。技。顯。れ。と。冷。方。多。う。乃。自。害。よ。と。浮  
し。る。名。と。死。後。よ。う。れ。ん。も。影。護。死。ね。死。う。れ。ぬ。か。い。つ。る。せん。一。人。り

音と。く。谷。潘。乃。涙。の。雨。は。多。く。底。の。水。草。は。首。蒲。若。ひ。く。人。も。う。朽。果  
へ。と。宿。世。の。報。ぞ。と。お。か。へ。眼。の。う。ら。い。と。忘。れ。も。中。に。侍。後。川。落。浮。花。と。り。う  
と。い。れ。流。君。れ。扇。と。暮。四。箇。乃。蜘蛛。と。妻。は。取。お。げ。う。る。が。縁。と。う。り。今。も  
蜘蛛。の。夢。乃。そ。の。秋。の。扇。と。捨。れ。れ。つ。思。と。あ。き。り。の。よ。と。お。と。さ。れ。か。る。と。ぞ。た  
ま。う。と。う。や。見。手。柏。乃。倭。人。と。れ。が。巧。と。つ。人。と。と。猜。め。ら。今。一。度。と。び。戻。ら。ぬ。い。ね  
う。と。涙。と。顔。に。か。り。ま。れ。破。れ。離。と。こ。ろ。も。お。終。い。ひ。れ。と。柳。も。膝。に。落。へ。と  
別。乃。祥。や。と。公。乃。歎。へ。吉。三。ハ。今。宵。花。柳。と。母。の。異。見。は。奥。と。失。ひ。今。又  
首。蒲。よ。う。さ。れ。と。い。と。憂。く。お。ひ。け。れ。に。懸。く。は。場。と。な。さ。め。と。呵。く。と。う。ら。笑。ひ  
こ。不。ご。お。い。せ。く。多。く。ば。な。ど。其。刻。に。分。説。で。ま。る。お。か。乃。別。く。十。余。箇。月。今。は  
へ。改。嫁。と。子。と。生。け。け。り。と。つ。ひ。と。ぞ。籠。よ。う。ん。と。首。蒲。へ。尚。も。泣。き。つ。と。お  
宣。ふ。は。お。れ。と。お。か。ひ。が。ま。ま。と。の。こ。よ。て。頼。に。言。釈。め。は。も。あ。く。と。ぞ。その。暇。よ



追出されど血と合し兄才と知りぬぬ情もやと兄と恨由縁在  
と。答ふものにく力あり恩愛義理の四弦より為る搦れ琵琶小路書  
人目もあびし。流石に面をせしべ夜も傍徨我家の門昔自冊  
侍女美婢へ言ふかけも畜生れ公も。主に疎れ退放され。我れを  
悪しと誓ひてや。多めぬ犬の吠もして。其形よけれよと伶傳ありき。  
多ひと空しく度ば改嫁とせしは。その餘りに情もかまで乳  
強きあふ花街に住妓女乃。風俗にやそとあふ人々と妬しとひを  
文に傳も君が意にのめ阿曾比とむるあをま。妾も婢の中は人の従  
乃情けげど。は側も地もあつて。それいふことを顔のいじや。よ喃々  
と泣叫ひしつぎ歎をひるま。千種道運に感げん涙とこがも枝の露尾花  
も風ようらぎも。吉三六つせま面拍く一言の答もあつと。和らげ籠

あうらうとまをたし。何方に隠居するけ人佐吾七はと走りつて。あひ  
中に立玉。妹が形勢公のむと。見がれは暮來。仔細は少い萬葉も  
今いふ。餘り無慙のゆゑ。まひ。我々が実れ兄才にわづと  
如何不承と。その生平乃行跡少くも知れぬ先き。こち  
べま。我富度屋に在。昔君の目く漫行もあつと。まへく柳巷を何  
方と知れし。まへにね程多し。若人よ似れ。誰人もわん多し。商人  
はかくこと。いよく家と起さめと秋をれと。近曾より。某私に窺ひ  
人。君乃許通ひ。家には宿ぬ。風は。人す。以某私に窺ひ  
見る。渠へ容華絶代の婦人といふに。わづと。おの言と巧に。君が  
公と蕩。己の。夫死と愛者。花落く。再と。風水と愛者。の  
用落と。知れ。四時と。男女。情も。又然。容と。慕は。短く。公と。暮

七四



へ長限ある銭財よりく限なき妻は失ひぬを愚多しとす心と將  
ぬふと遂に親類血族は捨られ路頭は冷ふ也才と云ふべし其がさざや  
と尚異見乃執公のなきりやへんと多せど吉三はその言とすも果さざ怒公  
より起佐吾七が誓を推んく大地は指しけ初の程は高蒲の事と云ふは不便  
とせひいづれを知ぬ妹と云ふめと誘ふ来り又こりもま不我と謀るの事  
べそそ入汝が他はゆるも口管異見の執は假托己の妹と美醜と云  
いぬむろに蕙と安と栄はと罵る條忠と義ととせり公乃底の妹  
と餌と云ふ己が才の栄利と云ふも横道者さまぐ我放蕩と歎る  
とくはと来りて諫むまこといまだ遅くて分説ありやがこれ少人と突放し  
たこと睨ば佐吾七少も退きこいれりまこといまだ遅くて分説ありやがこれ少人と突放し  
日より罪をいふと云解免と家人と片時も忘れはさぬと生平君が

傍に彼は八が附添居べ直言も伝ふ妨られまやれあぬわじと諫大  
いれむ他もまこと今日まての黙止り塵垢ハ鑑と云ふを諫言へんと惑も  
かく公ありてくうせあ原へり心在家に養ひぬ猛大あり彼  
と退けぬむと遂に歯牙は害せりぬあべ歎へくま更まるとやとす  
心と將ぬひぬとと理と云ふと涙と共に諫れ沈酔のうられ心吉三直  
くやもやれもせれ既も勘当うけ我と主人とせひはせば他人は對て益  
諫言せぬとよかつらひ我と醉と醒ぬと袖と拵く去んと云佐吾七  
忙しく引ぬめもぬ雅面もよきまふ主人とせひはせまうと如何  
初より諫こりやべき聲は暇ぬへも公は君れ傍に片時もさうとせし  
ゆゆる言三勅然と怒心と生れ撲地と足はく蹴返せば吐嗟と心かり打撃の  
くからよ高蒲と引のけつ起もわがぬ佐吾七が肩尖面乃差別多く





雪吹花街  
 帰路  
 曲者  
 殺害  
 せらる



新でまじりのき

九五とこま



踏<sup>ふみ</sup>ひく声<sup>こゑ</sup>をききしに、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>佐<sup>さ</sup>吾<sup>ご</sup>七<sup>しち</sup>と云<sup>い</sup>ふと、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>家<sup>いへ</sup>と訪<sup>たず</sup>ひ、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>竊<sup>ひそ</sup>に誅<sup>つと</sup>言<sup>い</sup>ふを  
 へまきと、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>夜<sup>よ</sup>も天<sup>あま</sup>圍<sup>い</sup>て、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>中<sup>なかつ</sup>へ入<sup>い</sup>り、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>さ<sup>か</sup>の<sup>か</sup>み<sup>の</sup>い<sup>は</sup>さ<sup>か</sup>る。大<sup>おほ</sup>路<sup>ぢ</sup>よ<sup>う</sup>ま<sup>は</sup>れ<sup>ば</sup>非<sup>ひ</sup>と<sup>あ</sup>ら<sup>ず</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>か<sup>の</sup>い<sup>は</sup>語<sup>ご</sup>  
 へ<sup>さ</sup>が<sup>ら</sup>ふ<sup>ら</sup>公<sup>こう</sup>乃<sup>の</sup>鏡<sup>かがみ</sup>と、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>曇<sup>くも</sup>も塵<sup>ちり</sup>垢<sup>あか</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>我<sup>われ</sup>原<sup>はら</sup>れ<sup>ば</sup>武<sup>ぶ</sup>士<sup>し</sup>多<sup>た</sup>り、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>せ<sup>ば</sup>汝<sup>なんぢ</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>に</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>二<sup>ふた</sup>刀<sup>やいば</sup>段<sup>だん</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>に</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>は<sup>な</sup>げ<sup>ば</sup>情<sup>なさけ</sup>と  
 なる<sup>に</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>け<sup>ん</sup>の<sup>め</sup>と。今<sup>いま</sup>商<sup>あきなひ</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>に</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>さ<sup>か</sup>の<sup>か</sup>み<sup>の</sup>い<sup>は</sup>さ<sup>か</sup>る。力<sup>ちから</sup>よ<sup>う</sup>寸<sup>すん</sup>鉄<sup>てつ</sup>も<sup>も</sup>佩<sup>ひ</sup>ぶ<sup>る</sup>も、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>口<sup>くち</sup>情<sup>なさけ</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>に</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>服<sup>ふく</sup>逆<sup>さか</sup>は<sup>り</sup>  
 狂<sup>くる</sup>氣<sup>き</sup>の<sup>い</sup>ど<sup>く</sup>。さ<sup>か</sup>の<sup>か</sup>み<sup>の</sup>い<sup>は</sup>さ<sup>か</sup>る。打<sup>うち</sup>拂<sup>は</sup>さ<sup>る</sup>。衣<sup>え</sup>紋<sup>いもん</sup>れ<sup>は</sup>く<sup>に</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>懐<sup>ふところ</sup>中<sup>ちゆう</sup>より、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>撲<sup>つ</sup>的<sup>てき</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>に</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>落<sup>おち</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>に</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>湯<sup>ゆ</sup>乃<sup>の</sup>袋<sup>ふくろ</sup>  
 う<sup>ら</sup>ら<sup>り</sup>こ<sup>の</sup>び<sup>り</sup>く<sup>に</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>一<sup>ひと</sup>品<sup>しん</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>に</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>佐<sup>さ</sup>吾<sup>ご</sup>七<sup>しち</sup>へ<sup>も</sup>取<sup>と</sup>り、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>枕<sup>まくら</sup>燈<sup>あかり</sup>の<sup>い</sup>火<sup>ひ</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>火<sup>ひ</sup>歌<sup>うた</sup>よ<sup>う</sup>ん<sup>ち</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>且<sup>かつ</sup>奏<sup>そう</sup>ま<sup>ま</sup>直<sup>ぢゆう</sup>  
 怪<sup>あや</sup>し<sup>き</sup>。吉<sup>きち</sup>三<sup>さん</sup>が<sup>か</sup>面<sup>おもて</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>に</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>信<sup>まこと</sup>度<sup>た</sup>ん<sup>ん</sup>れ<sup>は</sup>。吉<sup>きち</sup>三<sup>さん</sup>は<sup>な</sup>ま<sup>ま</sup>公<sup>こう</sup>も<sup>も</sup>つ<sup>つ</sup>も、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>か<sup>の</sup>い<sup>は</sup>れ<sup>は</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>我<sup>われ</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>に</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>睨<sup>にら</sup>み<sup>ま</sup>へ<sup>り</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>何<sup>なに</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>に</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>恨<sup>うらみ</sup>  
 せ<sup>ら</sup>れ<sup>り</sup>と、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>又<sup>また</sup>も<sup>も</sup>籠<sup>かご</sup>に<sup>い</sup>り、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>夫<sup>つま</sup>の<sup>い</sup>ち<sup>ぢ</sup>の<sup>い</sup>は<sup>さ</sup>か<sup>る</sup>。と<sup>い</sup>ふ<sup>に</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>携<sup>も</sup>ち、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>高<sup>たか</sup>浦<sup>うら</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>に</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>突<sup>つ</sup>退<sup>たい</sup>  
 せ<sup>ら</sup>れ<sup>り</sup>。も<sup>も</sup>つ<sup>つ</sup>も<sup>も</sup>は<sup>な</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>佐<sup>さ</sup>吾<sup>ご</sup>七<sup>しち</sup>が<sup>か</sup>籠<sup>かご</sup>乃<sup>の</sup>簾<sup>すだれ</sup>に<sup>い</sup>り、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>か<sup>の</sup>い<sup>は</sup>さ<sup>か</sup>る。と<sup>い</sup>ふ<sup>に</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>異<sup>い</sup>見<sup>けん</sup>の<sup>い</sup>は<sup>さ</sup>か<sup>る</sup>  
 せ<sup>ら</sup>れ<sup>り</sup>。も<sup>も</sup>つ<sup>つ</sup>も<sup>も</sup>は<sup>な</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>別<sup>べつ</sup>に<sup>い</sup>り、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>さ<sup>か</sup>の<sup>か</sup>み<sup>の</sup>い<sup>は</sup>さ<sup>か</sup>る。と<sup>い</sup>ふ<sup>に</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>少<sup>せう</sup>時<sup>じ</sup>待<sup>まち</sup>め<sup>り</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>さ<sup>か</sup>の<sup>か</sup>み<sup>の</sup>い<sup>は</sup>さ<sup>か</sup>る。と<sup>い</sup>ふ<sup>に</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>い<sup>は</sup>さ<sup>か</sup>る  
 せ<sup>ら</sup>れ<sup>り</sup>。も<sup>も</sup>つ<sup>つ</sup>も<sup>も</sup>は<sup>な</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>佐<sup>さ</sup>吾<sup>ご</sup>七<sup>しち</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>に</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>松<sup>まつ</sup>の<sup>い</sup>は<sup>さ</sup>か<sup>る</sup>。と<sup>い</sup>ふ<sup>に</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>西<sup>にし</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>に</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>急<sup>いそ</sup>せ<sup>ら</sup>る。

このうら ちんぱら のちいさくく  
 (一) 稿<sup>こう</sup>と半<sup>はん</sup>脱<sup>だつ</sup>して後<sup>のち</sup>耳<sup>みみ</sup>食<sup>く</sup>録<sup>ろく</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>に</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>小<sup>せう</sup>説<sup>せつ</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>に</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>説<sup>せつ</sup>に七<sup>しち</sup>賢<sup>けん</sup>乃<sup>の</sup>名<sup>な</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>に</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>竈<sup>かまど</sup>と  
 酒<sup>しゆ</sup>宴<sup>えん</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>に</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>説<sup>せつ</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>に</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>裁<sup>さい</sup>り。吉<sup>きち</sup>三<sup>さん</sup>が<sup>か</sup>地<sup>ぢ</sup>獄<sup>ごく</sup>の<sup>い</sup>体<sup>たい</sup>相<sup>さう</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>に</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>略<sup>りやく</sup>相<sup>さう</sup>似<sup>に</sup>  
 と<sup>い</sup>ふ<sup>に</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>彼<sup>か</sup>書<sup>しよ</sup>の<sup>い</sup>り<sup>く</sup>い<sup>は</sup>執<sup>しやく</sup>向<sup>かう</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>に</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>な<sup>ら</sup>ど、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>和<sup>わ</sup>漢<sup>かん</sup>の<sup>い</sup>人<sup>にん</sup>情<sup>じやう</sup>ひ<sup>ら</sup>り<sup>ま</sup>  
 と<sup>い</sup>ふ<sup>に</sup>、<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>し<sup>て</sup>ど<sup>の</sup>か<sup>の</sup>い<sup>は</sup>さ<sup>か</sup>る。

狹子招昔本偶三之巻 終

綴てもと三の巻

七七 山崎











